

《 競 技 規 定 》

【公認】

本大会はJHFハンググライダー・ルールブックにより実施するものである。

万一大会規程、競技規程、エリアルールに不備があった場合はJHFハンググライダールールブックに準ずるものとする。

【GPS】

GPSによるフライト記録はJHFルールブックの規定に従う。

GPSによる採点はJHFルールブック規定による。

【タスクの発表】

1. 競技タスクは参加選手の技能に応じたものとする。
2. タスクは、気象条件等を考慮し、競技開始前にブリーフィングで競技委員長が発表すること。また、同時に公式掲示板（タスクボード）にもタスクを掲示すること。

【ミニマム距離】

競技のミニマム距離は GAP パラメーターの Minimum Distance と同等とする。

【競技時間】

1. 選手は、テイクオフオープンからテイクオフクローズの間に競技を開始すること。ただし、競技委員長の判断により、 テイクオフオープン前に選手がスタンバイゾーンおよびテイクオフゾーンへ移動する時間を設けることができる。
2. テイクオフオープン前の競技フライトのためのテイクオフはできない。
3. テイクオフクローズ以降の競技フライトのためのテイクオフはできない。
4. テイクオフオープンからスタートゲートオープンまでは、競技参加選手人数×1 分は時間をあけることが望ましい。

【テイクオフ方法】

テイクオフは西富士テイクオフ上段1ヶ所、中段1ヶ所の計2ヶ所とし、テイクオフ方法はフリーテイクオフとする。

【フリーテイクオフ：セットアップゾーン】

1. 機体は役員の指示があるまでセットアップしてはならない。
2. 前日までの成績順に決められた（選択した）場所で機体をセットアップすること。初日・同順位者に関しては、ハンググライディングシリーズのゼッケン順とする。
3. すべての選手がスタンバイゾーンに進入できるように通路を確保すること。
4. 成績上位の選手が下位の選手よりも、先にスタンバイゾーンに進入する権利を持つこととする。
5. 選手はフライヤー精神に則り、譲り合いの気持ちでスタンバイゾーンに並ばなくてはならない。
6. 競技開始時間より前に、選手はセットアップゾーンを出てはいけない。ただし、グライダーの向きを変える、プレフライトチェックなどのセットアップゾーン内での行為は可能とする。

【フリーテイクオフ：スタンバイゾーン定員上段、中段各5名】

1. スタンバイゾーン内は一列になり、先頭の選手から順次テイクオフゾーンに進むこと。
2. スタンバイゾーン内のすべての選手がテイクオフゾーンへの進入を拒否した場合、このゾーンに留まることはできる が、定員が超過した場合は、超過人数分だけ先頭より順次テイクオフゾーンに進むこと。
3. スタンバイゾーン内すべての選手が留まっていたが、テイクオフゾーンへの進入希望者が出た場合、先頭より順にその選手までがテイクオフゾーンへ進むこと。
4. スタンバイゾーンの列がセットアップゾーンまで延びた場合、Ⅳ-6 に準ずる。

【フリーテイクオフ：テイクオフゾーン定員上段、中段各1名】

1. テイクオフゾーンに入るには、選手はスタンバイゾーンを通過しなければならない。
2. テイクオフゾーンでは、選手は一列に並ぶこと。
3. テイクオフゾーンにいる選手が単数の場合、選手は好きな時にテイクオフできる。
4. テイクオフゾーンにいる選手が複数の場合、2 分以内にテイクオフしなければならない。
5. 何らかの理由によりテイクオフクローズになった場合、先頭の選手は、再びテイクオフオープンになった後 2分以内 にテイクオフしなければならない。
6. テイクオフゾーンは割り込み、順列の入れ替えは禁止とする。

【ランチオーダー】

1. あらかじめ決められた順番で選手はテイクオフすること。
2. あらかじめ決められた順番をキャンセルした選手は、決められた順番の最後尾にまわされる

【リフライト】

リフライトは何度しても良い。但し、その競技の最終フライトが得点対象となる。

【ゴール】

1. ゴールは目視可能な地上のラインのほか、GPS に示される座標を中心としたラインまたはシリンドラーとする。
2. ゴールには必ずゴール役員を置くこと。ゴールした選手はゴール役員の指示に従うこと。
3. ゴールした選手はゴール役員に自己申告すること。
4. ゴールまたはその近くに LD エリアを確保し、吹き流しを設置すること。
5. 地上のゴールラインの場合、最低 50m ラインを設置することが望ましい。
6. ゴールラインの場合、最終 TP 方向からラインを通過すること。
7. ESS(End of Speed-Section)に到達したが、ゴールできなかった選手はタイム得点とアライバル得点が減点される。 得点率は GAP パラメーター(time_points_if_not_in_goal)に依る。
ゴールはGPS 上のゴールライン 又はGPS 上のゴールシリンドラーとする。

【アウトサイドランディング】

1. 西富士メインランディング場及び指定地(サブ)ランディング場で、それ以外の選手は、全てアウトサイドランディングとする。
2. 距離計測のベストポジションは指定地にランディングした場合のみ採用し、アウトサイドランディングは失格とする。
3. 安全上の理由等でやむを得ずランディング場に入れなかった場合、自分の機体と共に5分以内にランディング場に入ればランディング場に降りたものとする。但し実害があった場合は失格とする。

【競技終了報告】

1. 競技参加受付を行った選手は、安全確認のため、競技終了の報告を大会本部に行うこと。
2. ゴールした選手は、ゴール役員の確認をもって競技終了報告とすることができる。
3. 競技終了報告はランディング報告締切までに行わなければならない。
4. この時間は原則として、タスクフィニッシュ後に安全なランディングができる時間をもって設定すること。
5. 指定時間までに報告がない場合、この選手は減点対象となる。
6. ランディングクローズ時間は設定してはならない。

【競技記録提出】

1. 選手はそのフライトの得点を得るために、GPSもしくは携帯電話機のトラックログをタスクレポート締切までに提出すること。
2. この時刻は、十分余裕を持った時刻を設定することが望ましい。

【時間の計測】

1. 飛行時間は、スタートから ESS(End of Speed-Section) までを計測し、秒単位とする。

【スタート】

1. スタートはインターバルエアスタートもしくは一斉スタート、Elapsed タイムとする。
2. スタート時間前にスタートした場合、これをフライングとする。この場合、GAP パラメーターの jump_the_gun_factor に応じて減点される。また、GAP パラメーターの jump_the_gun_max (秒) 以上フライングした場合は、ミニマム 得点が付与される。
$$\text{フライング減点} = (\text{フライングした秒数}) / (\text{jump_the_gun_factor})$$

【ゴール時間】

1. 地上のゴールラインの場合、ラインの上空を最終ターンポイント方向から機体の最先端が通過した時間とする。
2. GPS 上のゴールラインの場合は、ラインを通過した時間とする。前後のログの記録から時刻を判定する。
3. ゴールシリンダーの場合、上記2と同様とする。

【シリンダー】

1. ターンポイントのシリンダー半径は 400m を推奨する。
2. スタートゲートおよびゴールのシリンダー半径は 400m 以上とする。

【距離の測定】

1. 指定地にランディングした場合のみベストポジションを採用する。アウトサイドは失格とする。
2. 次のターンポイントに対して、最も近づいた GPS 上の軌跡のポイントをベストポジションとする。
3. LD 場所前後のターンポイントを直線で結んだ距離から、次のターンポイントとベストポジションまでの距離を引いたものをその選手の飛行距離として換算されることとする。
4. 選手の飛行距離は、テイクオフから、スタートゲート、各指定ターンポイントのシリンダー間、そしてゴールまたはLDした地点までの距離を加算したものとする。

【得点計算】

1. JHFルールブックに準じる。
2. 救急着陸得点付与

競技参加中不測の事態が発生した選手を救済のため着陸した第一選手に対して次の得点を付与する。

大会初日は選手全員得点の平均点、2 日目以降は選手本人の平均点を付与する。但し、事態によっては競技委員長の判断とする。

【タスクストップ・競技キャンセル】

競技中天候の急激な変化による気象条件の悪化、山沈要救助者等の不測の事態が起き競技続行が不可能と判断した場合、競技委員長よりタスクストップ又はキャンセルの無線連絡をすることがある。コールがあった場合、選手は速やかに安全な場所へLDすること。得点計算はタスクストップ時のルールブック規定に準ずる。ストップの時間は競技委員長判断により決定する。

【無線機】

- ・ 参加選手はデジタル無線及びJPA無線を携帯しなければならない。
- ・ 選手はフライト中に、大会主催者の指示が無線機により聞こえる状態でなければならない。

飛行禁止ランディング禁止区域及び罰則

1. ゴルフ場内へのランディング……………フライト失格、警告1回
2. 前山周辺パラ専用空域（海拔高度1250 m以下）…………… フライト失格、警告1回
3. 射撃場西斜面での飛行（海拔高度1250 m以下）……………フライト失格、警告1回
4. 模型飛行機場半径300 m以内の円柱状空域での飛行 ……フライト失格、警告1回
5. 猪之頭地区民家密集地上空（海拔900 m以下）での飛行… フライト失格、警告1回
6. 小田貫湿原へのランディング……………フライト失格、警告1回
7. 牧草地へのランディング ……フライト失格、警告1回
8. さんじゅう To 半径 200 m内（高度 1700 m以下）でのセンタリングまたはリッジソアリング……フライト失格 警告 1 回
※通過はシリンダー内でも失格にならないが、原則さんじゅう To 付近はパラの専用空域のため迂回すること。
※失格定義として1周のセンタリング軌道内にシリンダー通過が見られた場合又は明らかなリッジソアリング軌道による通過。
9. その他メイン、サブ、指定地ランディング以外の場所へ着陸した場合（実害なし）………… フライト失格
（被害、実害あり）…フライト失格、警告 1 回

※警告を2回受けた選手は大会失格とする。その日重複の場合は競技委員長判断に委ねる。